

平成23年3月31日

平成22年度東京都立中野工業高等学校 学校経営報告（全日制課程）

東京都立中野工業高等学校長 三神 幸男

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

ア 学習指導 <分かる授業の一層の充実>

- ① 1学年の数学・英語と2学年の数学の授業で習熟度別授業を、実習等で少人数指導を実施し、基礎・基本の定着を図った。また、各科目において、基礎・基本を重視した指導を実施した。今後は、基礎学力の充実を図るための補講・補習の充実を進める。
- ② ICT機器を授業で効果的に活用したり、生徒の実態を踏まえた教材を作成したりし、学ぶ楽しさを味わう授業、学習意欲を高める授業を工夫した。しかし、ICT機器を継続的に活用した教員は2割未満であり、今後一層の活用を進める必要がある。
- ③ 工業数理基礎、工業技術基礎、実習などの授業で、少人数指導やチーム・ティーチングを実施するなどし、個に応じた学習指導やきめ細かい学習指導を行った。

イ 進路指導 <生徒一人一人の能力を伸ばし、自己実現を支援>

- ① キャリア教育の一環として、大学生等との交流などの体験学習を実施し、進路意識を高めた。また、ハローワーク等、関係機関との連携により、継続的な進路指導や職業適性検査等を活用した進路指導を推進した。さらに、工場見学や展示会の見学を行い、進路選択や進路活動に係る意識啓発を行った。しかし、体系的・組織的なキャリア教育の推進に関しては、一層の取組が必要である。
- ② スクールカウンセラーと学級担任、養護教諭等が連携し、教育相談体制の充実を図った。また、「都立学校における専門医派遣事業」を活用し、精神科医による支援を受け、生徒の心の健康に関する課題について研修や事例研究等を実施した。

教育庁が主催する技能習得型インターンシップに2学年生徒1名が参加した。インターンシップについては、一層の拡充が必要である。

1学年生徒が「計算技術検定4級」を受験し、156名が合格した。また、希望者を対象に、「ガス溶接技能講習」（72名修了）、「基礎製図検定」（13名合格）、「危険物乙種第4類」（4名合格）などの資格取得や検定等に取り組んだ。

- ③ 進路の実現に向けた学力や技能を身に付けさせるために、国語の授業などで、論文や面接などに対応する表現力やプレゼンテーション能力を育成した。また、会社見学や奉仕体験活動を通して、社会人に求められる礼儀作法やマナーを学ばせた。

ウ 生活指導 <基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成>

- ① 遅刻防止指導を担当と生徒部とで連携して実施したり、担任と家庭とで連携して遅刻や欠席の防止の取組を推進したりして、前年度に比べ、遅刻者数は約2割、欠席者数は約3割減少した。しかし、遅刻・欠席をする生徒を減少させる取組は、今後もさらに継続し、改善を進める必要がある。
- ② 日々のホームルーム活動や全校集会など、日常の指導を通して規範意識を高めるとともに、人権尊重の態度を養った。
- ③ 全校集会等で、頭髪や制服の点検、通学時の交通安全やマナーに関する講話などを行い、身だしなみや公共のマナーを向上させる指導に取り組んだ。

エ 特別活動・部活動 <学校行事・部活動・生徒会活動の活性化>

- ① 体育祭、文化祭等の各種行事において、生徒会の役員や実行委員会を中心に生徒に積極的に企画・運営させ、生徒の主体的な活動を推進したことにより、学校に対する生徒の帰属意識が高まった。
- ② 特定の部については、活発に活動したが、参加人数が少なく部や活動を休止した部もあった。生徒会については、校内の行事に加え、地域におけるボランティア活動などに積極的に取り組んだ。ただし、活動が一部の生徒に限られていることが課題である。部活動や生徒会活動をさらに活性化させる必要がある。

オ 健康づくり <健康教育、安全教育の推進>

- ① 保護者と担任との面談の機会（面談週間）を設けて、生徒の健全育成に関して、家庭と学校とが連携して取り組んだ。
- ② 日ごろより、スクールカウンセラーとの連携を図るとともに、精神科専門医を講師とした研修会を2回実施し、カウンセリングや生徒理解に係る専門性を向上させ教育相談の充実を図った。さらに組織的な相談体制を確立することが今後の課題である。

カ 募集・広報活動 <本校の教育のよさを紹介>

- ① 中学生向けの授業公開、一日体験入学は各1回、学校説明会は3回、計画どおり実施した。
- ② 東京都教育委員会が主催した「わくわくどきどき夏休み工作スタジオ」に参加し、各類型で企画したものづくりの講座に、36名の小学生が参加した。

キ 学校経営・組織体制 <都民に信頼され、地域に支持される学校づくりの推進>

- ① 平素より、サービスの厳正に期するとともに、保護者や地域住民との接遇マナーに心がけた。また、生徒会の生徒などが、地域におけるボランティア活動に参加したり、地域からの苦情等については教員が急行して対応したりするなど、都民・地域から信頼される学校づくりを目指した。
- ② 「個人情報の安全管理に関する基準」、「情報資産の取扱いに関する安全管理措置」を改正し、それを職員に周知するとともに、服務事故防止研修を実施することによって、個人情報の管理について徹底した。

- ③ 自律経営推進予算については、四半期毎の執行管理を基にして適正かつ効果的に活用し、教育内容や教育環境の充実を図った。
- ④ 施設・設備の改修についての検討は、不十分であった。

(2) 重点目標への取組と自己評価

ア 学習指導

- ① 年間を通して授業時間数の確保に努め、習熟度別授業や少人数授業を適切に実施するとともに、ICT機器を活用して、分かる授業を推進した。
- ② 教科「奉仕」の学習を通して、「炊き出し体験」や「救命・救急講習」等の体験学習を実施し、社会貢献の態度を育成した。
- ③ 1学年生徒全員に「計算技術検定4級」を受験させたり、国語の授業などで、論文や面接などに対応する表現力やプレゼンテーション能力を育成したりし、生徒一人一人の進路希望の実現を支援する学力向上を目指した。
- ④ 技能習得型インターンシップに1名の生徒を参加させ、民間企業と連携した専門教育を推進した。今後、一層の拡充に取り組む。
- ⑤ 1学年生徒が「計算技術検定4級」を受験し、156名が合格した。また、希望者を対象に「ガス溶接技能講習」（72名修了）、「基礎製図検定」（13名合格）、「危険物乙種第4類」（4名合格）などの資格取得や検定等に取り組んだ。今後、さらに資格取得や検定等の合格を目指す指導を充実させる。

イ 進路指導

- ① 進路指導部、学年、学科等が連携して進路指導を行い、進路決定率は99.2%（目標は100%）であった。内訳は、四年制大学が5.9%、短期大学が3.4%、専門学校・各種学校が28.0%、就職が61.9%、進路未決定が0.8%である。
- ② 関係機関と連携し、進路講話、進路ガイダンスを実施し、望ましい勤労観・職業観を育成した。しかし、インターンシップの拡充や体系的・組織的なキャリア教育の充実が今後の課題である。

ウ 生活指導

- ① 遅刻指導の内容・方法を充実させ、遅刻をする生徒を前年度に比べ約2割減少させた。
- ② 外部講師を依頼して健全育成や薬物乱用防止指導の観点から講話を2回実施した。
- ③ ホームルーム活動や全体集会などで、あいさつの励行、高校生としてふさわしい身だしなみなどに関する指導を行った。
- ④ 生活指導についての体制・方法の見直しを図り、校内規定を改正した。

エ 特別活動

- ① 各学校行事の参加率（目標は100%）は、体育祭が96.9%、文化祭が95.1%、合唱祭が94.7%、修学旅行が98.4%であった。参加率が一層高められるように取組を継続する。
- ② 部活動の加入率は45.0%（目標は50%）であった。

オ 健康づくり

- ① 学校保健委員会は年2回以上実施する予定であったが、実施できなかった。
- ② スクールカウンセラーを講師とする校内研修を3月に実施して、カウンセリングや生徒理解に係る専門性の向上を目指すとともに、教育相談の充実を図った。

カ 募集・広報活動

- ① 中学生向けの授業公開、一日体験入学は各1回、学校説明会は3回、計画どおり実施した。参加者は、一日体験入学が31名、学校説明会は3回の合計で生徒225名、保護者190名、合計で415名であった。そのほかにも、夏季休業中に学校見学会を2回開催した。参加者は、2回の合計で生徒111名、保護者72名、合計で183名であった。
- ② 中学校に出向いての説明会は7回（目標は5回以上）実施した。中学校からの学校訪問は22校・延べ訪問者数は75人であった。
- ③ 小中学校の教員を対象とした実習見学会、体験学習を各1回以上実施することとしていたが、この企画は実現に至らなかった。
- ④ webページのデザインを改めるとともに、内容を随時更新し、本校の教育活動を都民に広く情報発信した。
- ⑤ 中学校訪問は101校（目標は130校以上）実施した。しかし、学習塾への訪問は未実施となった。また、地域との連携に係る取組としては、小学校の「地域見学」の授業を1回受け入れた。さらに、夏季休業中に近隣小学校で行われた「地域イベント」に2回参加し、ものづくり体験講座を実施した。

キ 学校経営・組織体制

- ① 生徒による授業評価を年2回実施し、それをもとに校内研修を1回実施した。
- ② 施設・設備の改修の具現化に向けた検討は、不十分であった。
- ③ 中途退学率は9.5%（目標10%以下）であった。
- ④ 課題研究や国語の調べ学習等で学校図書館の図書を活用するなどし、計画的な読書指導を推進した。
- ⑤ 生活指導などに係る校内研修を実施し、校内の課題解決に取り組んだ。

2 次年度以降の課題と対応策

- ① 分かる授業の一層の充実を図り、確実に基礎・基本を定着させる。
 - ・少人数指導や習熟度別による授業をさらに工夫したり、体験的な学習を充実させたりすることに加え、ICT機器を効果的に活用した授業を行うなど、学習への興味・

関心を高める授業を推進する。

- ・学力開拓推進事業に取り組み、授業改善や生徒の学力の向上を図る。
- ② キャリア教育の充実を図り、確実な進路実現を目指す。
- ・1学年から3学年までの体系的なキャリア教育の充実に向けて組織的に取り組む。
 - ・関係機関と連携した進路ガイダンスや進路指導をさらに推進し、進路指導を充実させ、進路決定率100%を目指す。
- ③ 基本的な生活習慣の確立を目指すとともに、学校生活への定着を図る。
- ・家庭との連携や遅刻防止指導をさらに充実させ、遅刻・欠席や中途退学の防止に向けて組織的に取り組む。
 - ・部活動への加入率は50%以上、学校行事への全員参加を目指す。
- ④ 教育相談体制の充実を図り、学校への適応を支援する。
- ・スクールカウンセラーと教員との連携を一層深化させ、組織的な相談体制を構築する。
- ⑤ 検定や資格取得を目指す指導を充実させる。
- ・各種検定や工業に係る資格取得を生徒に推奨し、合格に向けた指導を充実させる。
- ⑥ 広報活動を推進し、募集対策を充実させる。
- ・学校説明会、一日体験入学、中学校訪問等について一層組織的な取組を推進し、入学者選抜の応募倍率について、推薦に基づく選抜は2.0倍以上（前年度は1.87倍）、学力検査に基づく選抜は1.3倍以上（前年度は1.24倍）を目指す。
- ⑦ 施設・設備の改修計画の具現化を目指す。
- ・全日制と定時制とで合同で検討を進め、改修計画を具現化する。